

ハンドボールのルール改正における戦術の変化

Change in strategy to the revision of rule of handball

1K05B180

指導教員

主査 坂本静男先生

野村 喜亮

副査 鈴木克彦先生

第1章 序論

私は中学校の時から10年間ハンドボールをプレーしてきた。私は中学校、高校と指導者の教を乞いながらただがむしゃらにハンドボールというスポーツに対して向き合ってきた。しかしながら、自分の満足がいく結果を得ることはできなかった。大学に入学後、自分の中で何が足りなかったのかを考えていくうちに一つの答えが浮かんできた。「試合に勝つためには戦術が重要である」ということだ。戦術を深く考えることなくプレーしてきた結果、中学・高校と勝利することが難しく中途半端な結果しか残すことができなかった。しかし大学でプレーすることで初めて戦術の重要性に気づき、戦術について深く考えるようになり、結果を残すことができるようになったのである。また、同時に、大学でプレーをしているうちに少し違和感を感じるようになった。中学・高校で使用してきた攻め方・守り方が通用しなくなったのである。それは、中学・高校と比べてハンドボールのレベルが高くなったという理由もちろんある。しかしながら、他にも理由があるのではないだろうかと感じていた。毎年のように改正されていくルール。このルールの改正が戦術に深く関わっているのではないだろうか。そこで私は戦術に関して理解を深めるとともに、どのようにして戦術が変化してきたのかを「ハンドボールのルール改正における戦術の変化」という視点で考え、模索していく。

「戦後～1980年代におけるルール・戦術」と「1990年代～現在におけるルール・戦術」を比較することにより相違点を見つけ出し、ルール改正がいかにチーム戦術に影響を与えているかを考

えることにする。

第2章

第1項 ここではハンドボールの歴史について学んでいく。ハンドボールは11人制と現在に残る7人制で始まった。11人制ハンドボールは1910年代にドイツにおいてコンラッド・コッホによって考案され、主に女子を中心に行われていた。7人制ハンドボールは1898年にホルガー・ニールセンによって考案され、おもに北欧を中心に行われていた。当初は11人制であったが、徐々に7人制が主流となり、女子は1962年、男子は1967年の世界選手権から7人制に統一された。1906年には最古のハンドボール競技規則が刊行された。日本では1922年7月に大谷武一氏が日本体育学会夏期講習において11人制ハンドボールを紹介した。1928年に創設された国際アマチュアハンドボール連盟(IAHF)に日本陸上競技連盟の名で加盟し、1937年には第一回全日本選手権が開催された。1938年には日本送球協会が発足、同年日本体育協会に加盟した。第二次世界大戦下で禁止されたハンドボールという呼称は1948年に復活し、1952年には国際ハンドボール協会(IHF)への加盟が承認され、日本でも7人制ハンドボールが主流となっていった。1961年には男子が、1962年には女子がそれぞれ初の世界選手権出場を果たし、1962年には国内の公式試合すべてが7人制に統一された。

第2項 ここでは戦後から1980年代までのルール・基礎を学ぶ。

第3項 ここでは1990年代から現在までのルー

ル基礎を学ぶ。

第3章 戦略の変化

ハンドボールは年月とともに日々進化している。ここではハンドボールの戦術戦略がどのように発展してきたのかを深く学んでいく。また戦術の詳細についても学んでいく。

第4章 考察

第2項では「戦後～1990年代におけるルール・基礎」第3項では「1990年～現在におけるルール・基礎」について説明してきたが、ここではこの2つの相違点について調べ、ルール改正により戦術がどのように変化があったのか解き明かしていく。

第5章 結論

これまで述べてきたとおりルール改正をきっかけにハンドボールは戦術・技術面に関しては日々進化し発展していることが明らかになった。これからもルール改正が起こりハンドボールは進化し、より魅力的なスポーツになっていくであろう。しかしながら今現在のハンドボール界は審判問題、中東の笛問題などの新たな問題に直面している。これらを解決していかなければ日本のハンドボール界の未来は非常に厳しいものになって来るであろう。

今回「ハンドボールのルール改正における戦術の変化」について調べていく中で今まで自分の知らなかったことを数多く知ることができ、また、これからのハンドボール界の課題も知ることができた。私は大学卒業後もハンドボールと関わり、これらの課題を克服していくことに少しでも力添えできればと感じている。